



「正直者には尊敬の的、悪徳者には畏怖の的」。国税庁の開庁時に、当時のGHQ内国歳入課長であったハロルド＝モス氏から贈られた言葉です。善良な納税者からは信頼され、一部の悪質な納税者からは恐れられるような存在であれ、ということを端的に示しています。

この言葉が贈られてから約70年以上が経った今でも変わらずこの使命を胸に刻み、困難な課題に挑む約56,000人の職員が国税庁にはいます。

このパンフレットでご紹介したのは、ほんの一部の職員ですが、この冊子を手にとってくださった皆さんには、常によりよい税務行政をデザインしようとする職員達の熱い想いが伝わったでしょうか。

税は社会・経済と密接に関係しており、私たちは、常に変貌し続ける経済や社会において、税制・税務行政のあり方はどうあるべきかという問いに挑戦し続けています。

私たちと共に、これまで築き上げてきた国税組織の強みと納税者からの信頼を守りながら、これからの時代の税務行政のグランドデザインを描く仕事をしてみませんか。

このパンフレットを読んで国税庁の仕事に興味を持っていただいた皆さんと、ともに働ける日を心待ちにしています。

採用担当一同

Q1 学生時代に税法や会計などを勉強していなくても採用されるのでしょうか。

国税庁総合職職員のバックグラウンドは多彩です。出身学部を見ても、法学部や経済学部だけでなく、文学部、理学部、工学部からも採用実績がございます。入庁後、仕事をする上で必要な専門知識は、日々の業務を通じて習得することが出来るほか、各種研修や留学の機会も準備されているので心配ありません！

Q2 採用されやすい試験区分はありますか。また、試験区分によって入庁後のキャリアパスに違いはありますか。

採用の優劣や違いは全くありません。国税庁事務系総合職は、理系区分を含む総合職試験の全区分を対象に採用を行っています。入庁後も、試験区分によってキャリアパスが限定されることもなく、本人の希望と能力などに応じて経験を積んでいくことになります。

Q3 留学の機会はありますか。

若手総合職職員は、海外の大学院に留学し、自身の関心分野の研究を行う機会があります。毎年、各国の大学院に職員を派遣しており、留学中の職員は、高度な知識をその後の業務に活かすため、研鑽に励んでいます。

Q4 国税庁ではどのような人材を求めていますか。

国税庁には、不正を許さないという正義感とすべての行政サービスの原動力である「税」でこの国を支えるという強い使命感を持った5万6千人の職員がいます。総合職の職員には、この巨大な組織を動かすことが求められるため、行動力や柔軟性、組織を率いるリーダーシップが必要です。

採用実績

採用年度		H28	H29	H30	H31	R02	R03	R04	R05	R06	R07
採用者数		8	8	11	7	9	9	8	7	8	9
性別	男性	5	5	8	4	7	5	6	5	5	5
	女性	3	3	3	3	2	4	2	2	3	4
試験区分	総合職(大卒法律)	4	3	6	3	4	6	5	1	1	1
	総合職(大卒経済)	2	2	3	1	2	1	1	3	3	2
	総合職(大卒政治・国際)	-	-	-	-	1	-	-	2	1	2
	総合職(大卒工学)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	総合職(大卒教養)	-	-	1	-	1	-	-	-	1	3
	総合職(院卒行政)	2	3	1	2	1	1	2	1	2	1
	総合職(院卒化学・生物・薬学)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-